

## 第 10 章 点字使用者の漢字仮名交じり文体系の学習

視覚障害者が、視覚障害のない人々とのコミュニケーションを行う場合、音声言語によるコミュニケーションは容易にできるが、文字言語によるコミュニケーションはそう簡単には成立しない。視覚障害者の文字である点字を読み書きできる視覚障害のない人はまだ少数であるために、点字によるコミュニケーションには限界があるからだ。しかし、ICT 機器のめざましい発展によって、視覚障害者がコンピュータにローマ字等で入力することにより漢字仮名交じりの文章を作成することがごく当たり前になってきている。

このような状況を踏まえて、本章では、点字と墨字それぞれの表記の特徴を基盤として、点字使用者が漢字仮名交じり文体系について学習する意義とその内容、墨字文書作成のために理解しておきたい事項について述べる。

### 第 1 節 漢字や仮名文字について学習する意義

点字は視覚障害者の文字としては極めて便利なものである。しかし、一般社会における文字言語の中心は漢字と仮名文字であって、点字は一部の人の文字言語である。したがって、視覚障害者が社会生活をしていく上では、漢字や仮名文字についてある程度の知識をもち、理解していることが必須である。また、視覚障害者が墨字の表記についての知識・理解を深めておくことは、国語を正確に理解したり、適切に表現したりする上でも重要なことである。

ところで、この漢字や仮名文字による表記には極めて多様な形式がある。字形を例にとってみても、漢字や仮名文字の場合は、書き方によって様々な特徴がみられる。活字などによる表記も千差万別である。これに対して点字の場合は、書き方の違いによる特徴はほとんどみられない。点字定規と点筆との関係で点の頭が尖っていたり、ふっくらとした感じになったり、また、点の書き方によって点の出方が薄い字やむらのある字、一点一点しっかりと書いてある字、点の先端が裂けている字などというように多少の違いがあるだけである。点字タイプライターや点字製版機を用いた点字

でも、点のふくらみや大きさなどにわずかな違いがあるだけで、字形には全く違いがない。むしろ点字では、字形が少しでも違えば別の意味を表す文字になってしまうのである。

視覚障害のある児童生徒が、自分の文字でない墨字の表記に精通することは困難も大きいですが、ICT 機器を使って自分で墨字の電子データを作成する場合等に、漢字仮名交じり文の表記に関する基礎的な知識を身に付けておくことは必要である。また、墨字の表記の多様さについての理解を深めることも望ましい。

そのため、点字が一通り読み書きできるようになった段階で、漢字や仮名文字についての学習を始め、幅広い言語表記能力の向上を図ることは意義のあることである。

## 第2節 墨字と点字それぞれの表記の特徴

### 1 墨字表記の特徴

点字使用者が墨字の文章を作成する場合、仮名遣い等、墨字表記の特徴を理解するとともに、適切な漢字・漢語に変換できることが必要となる。

まずは、次に示すような墨字に関する知識をもち、理解を深めておくことが重要である。

(1) 漢字仮名交じり文は、通常は漢字と平仮名によって表記され、必要に応じて片仮名や数字、アルファベットなどが使われる。点字のような分かち書きはせず、漢字・漢語が点字における分かち書きの役割を果たしている。

ただし、幼児向けの童話や小学校低学年の教科書などは、点字と同じように分かち書きになっている。これは、漢字をほとんど使用せず、平仮名を主体とした文章だからである。平仮名、片仮名、ローマ字、点字など表音文字で文章を表記する場合は、意味のまとまりを把握しやすくするために、文節や単語による分かち書きが必要となる。

(2) 点字はすべて横書きであるが、墨字には横書きと縦書きがある。

(3) 片仮名は、次のような限られた範囲内で使用することになっている。

ア 外国の地名や人名を表記する場合

イ 外来語や外来音を表記する場合